

1 教育目標

- よく考える子
- ◎いつも元気な子
- こころ豊かな子（左の文字のみ集めると「よいこ」となる）

2 目指す学校像

- 子どもたちが「学びたくなる学校」
- 保護者が「通わせたい学校」
- 地域が「誇りに思う学校」
- 教職員が「勤めたい学校」

3 令和6年度の実行目標と方策（本年度の達成課題とその振り返り）

(1) 子どもたちが「学びたくなる学校」

- 分かりやすい言葉で具体的に表現し、朝会や行事など機会あるごとに呼びかけることで、児童が「今の自分が好き」と思えるよう努め、児童は自己肯定感を高めることができたと考える。
- スモールステップを心掛けるよう伝え、さらに注意しなくてもいいよう「先回りした」指導を教員に呼びかけ、教員は実行すべく心掛けた。
- 毎時間の授業や活動ではシェアリングを行い子どもたちにその良さを気づかせ、広められるように努力した。

① 特別な支援が必要な子どもたちへの指導・対応（学校サポーター等の活用）

- 保護者との連携を密にとり、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）、子ども家庭支援センター、児童相談所、民生・児童委員、教育委員会（教育指導課・特別支援担当、就学相談担当）等多くの関係諸機関と連携対応し、効果をあげたものも多数あった。

② 分かる授業・落ち着いた学習を進める。（めあての明確化）

- 多くの授業でめあてが明確に示され、スモールステップを用いる等分かる授業の実現にむけて努力を行った。
- 学校評価「分かりやすい授業」で好意的評価が87%から90%となり、9割の大台に乗った。

③ 体力向上・保健指導・食育など、総合的に健康教育を推進することで、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎を培う。（体育的活動、検診時の保健指導、食育）

- 計画通り実施することができた。子どもたちに合わせた形で今後も継続していく。

④ 交通事故0 いじめ0 不登校0 を目指す。

- 交通事故は0、いじめの訴えがあった際は早期解決を図った。
- 不登校は残念ながら0にはなっていない。改善が見られたものも多い。逆に新たに登校できない状況も発生した。引き続き対応していく。

⑤ 縦割り班活動のさらなる充実を図る。年間を通して活動を行う。

- とても効果的に実施できた。活動ごとにHPで報告済み。

⑥ 一人一台端末の有効活用を行う。

→さらなる有効活用が望まれる。また、端末の入れ替えなどで使用が難しくなった点も出た。改善を教育委員会と図っていく。さらに、使用することがメインではなく、引き続き道具として有効活用を図っていく。

(2) 保護者が「通わせたい学校」

→放課後子ども教室を3学期から原則毎日実施とし、子どもたちの安心安全な居場所づくりが一步進んだ。

①学級の荒れ0 体罰0 服務事故0

→0で終われた。常に未然防止を心掛け、発生した場合も早期解決できるよう日頃から児童や保護者と連携をとり、これからも信頼関係を保っていく。

②保護者からの苦情対応を的確に行う。

→その都度真摯に対応し、早期解決に努めた。解決の難しいものは教育委員会と連携し対応した（している）。

③国（6年）市（4～6年）各学力調査で、前年度を上回る学年平均を目指す。

→学校評価「分かりやすい授業」で好意的評価が87%から90%となり、9割の大台に乗った。（前述）

(3) 地域が「誇りにしたい学校」

①学運協、町会・自治会等とのスムーズな連携を行う。

→多くのご支援をいただいた。学運協、町会・自治会等とのスムーズな連携のため積極的にイベントや行事等に参加した。

②地域教材や人材の活用 子どもたちの生活に根ざした学習活動を取り入れる。

→地域の指導者を招聘し、プログラミングの授業を行い、コンテストでの入賞者を複数名輩出した。防災教育、交通安全の集い、食育、マーチングフェスタ、星空を見る夕べなど、地域等と連携し非常に多くの活動を行うことができた。

③地域から愛され「応援したい学校」を目指す。

→上記の通り多くの活動を通して地域の方と交流を図れた。引き続き「（つつい）応援したい学校（「応援してもらえる」ではない）」を目指していく。

(4) 教職員が「勤めたい学校」

①働き方改革の一層の推進を行い、もしもの時のサポート体制がとれる学校。

→費用対効果を考えて業務の見直しを一層行った。「大変でも続けていくべきこと」と「時代の流れに合わせて変えていくべきこと」を見誤らないよう心掛け校長は判断してきた。また「必要なこと」は「できるか、できないか」ではなく、「どうやったらできるか」考え、行動に移している。

②校内研究の充実。公開授業を見合う機会を設ける。

見せ合い学び合い、ともに成長し、ともに達成感を味わい絆感が深められる学校。

→東京都教育委員会体育健康教育推進校として、その研究成果を報告・発表することができた。それぞれの教員が「今できるベスト」を考え実行し、達成感を得ることができた。

③努力が報われ、すぐに結果は出なくとも「努力は裏切らない」と信じられる学校

→いっそう「チーム欄田」として連携を深めていく。「仕事は厳しく、生活は楽しく」を全教職員で心掛けて実施していく。